

妻

が、他人の

雌

になるまで。

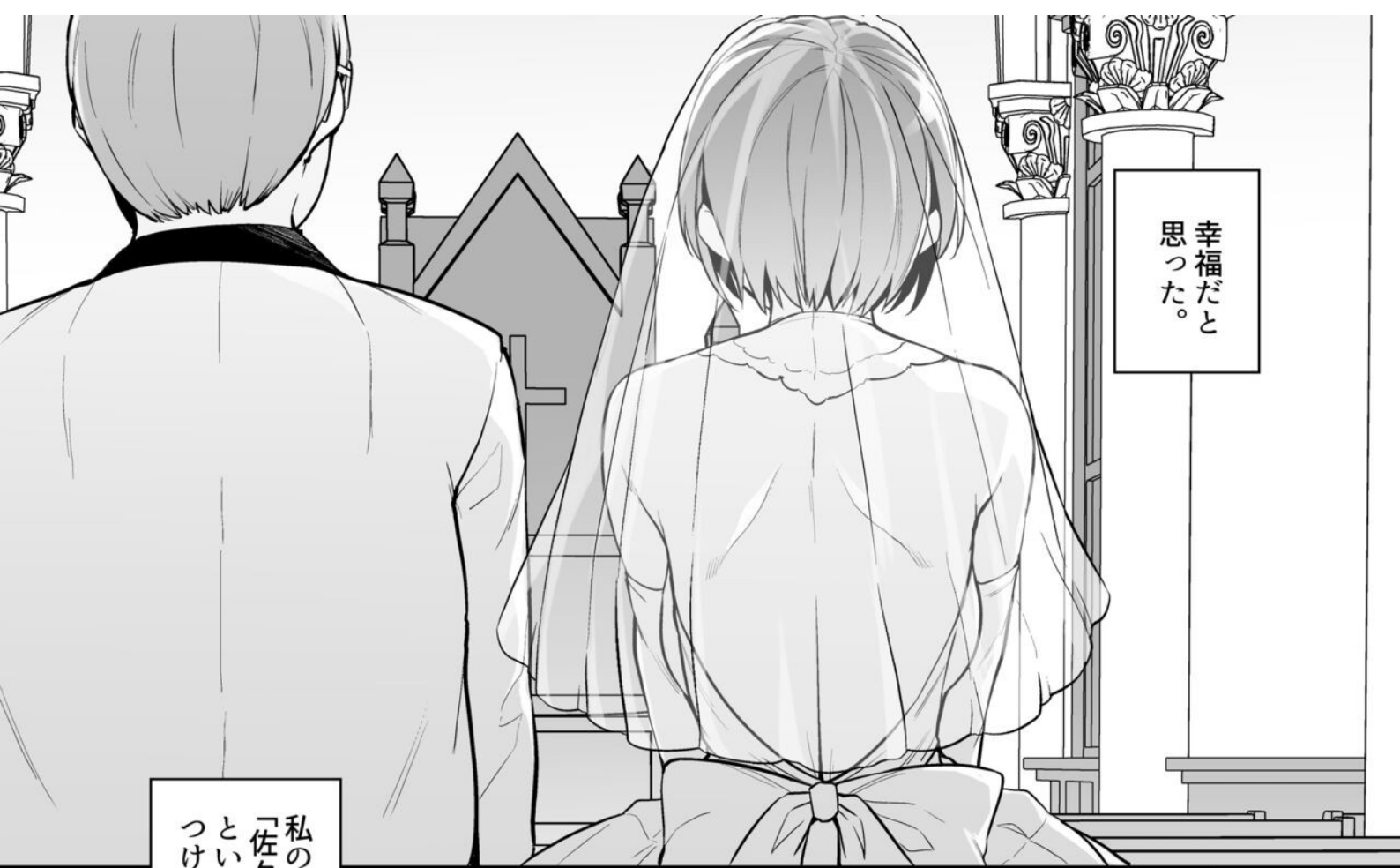
裏

みゆるびっち

R18

成人指定

Adult Contents



幸福だと
思った。

私の幸福には
「佐々木美咲」
というラベルが
つけられて



隣のこの人と
ずっと一緒に
人生を送るのだと
信じていた


愛し、愛される……
二人の気持ちに少しの
ズレもないはずだった

そう、思っ
たのに――



それなのに
なんで私は今……

夫と違う
男性とセックス
しようとして
いるのだろう——



夫の性癖が
「寝取らせ」だと
知ったのは——

妊活を始めて
しばらく経って
からだだった

始めは、行為の前に
「寝取らせもの」の
アダルト動画を
見たり——

でも……
それだけでは
夫は満足に勃起
できなくなり……

私の過去の
体験談を話して、
勃起させるのが
習慣になっていた
……

そして、ついに
夫からの提案——

お隣さんと……
美咲がもし、
セックスしたら——



色黒で筋肉質、
ふくよかな夫とは
あらゆる意味で
正反対なタイプ

加治木さんは
私たち夫婦からの
「寝取らせプレイ」
の申し出を承諾した



隣に住む男性
加治木さん……



ドゥッ……

ドゥッ……

夫を愛しているから？
夫のためだったら……
そういうことを
してあげてもいいと
思っているから……？



じゃあ私は——
私は、どうして
夫のこの提案を、
承諾したんだろう？

ラブホテルに
加治木さんと一緒に
向かう道すがら——
自問自答する……

ドゥッ……



ドクン...

恥ずかしさに
顔が熱くなるが
従うしかない。



ラブホテルに着き、
シャワーを浴びる
間もなく――

服を脱ぐことを
命じられる……。



彼に、このプレイへの
協力をお願いしたのは
私たち夫婦の方
なのだから……。



夫の為に、
我慢するって
決めたじゃない



っ……
今さら、貞淑ぶって
なんになるのよ……



っ……
キスは……



別に——



別に——夫が今まで
唯一セックスした相手
だったわけでもない……

夫と知り合う前
高校時代と大学時代に
一人ずつ……恋人が……



だから……
これだって
大したことじゃ
ないんだ……



最初に言った
とおりですよ
「証拠」が必要
ですからね

ス、
スマホは……



あうっ……

録音しますから
美咲さんは
答えてください



念書も交わした
上で繰り返した
なりますが……

これは「合意」の上の
性交で、不貞行為
ではない……
そうですね？
佐々木美咲さん

あなたたち夫婦の
「寝取らせ」に、
隣人である俺が
協力している

そのことを、はつきり
動画に証拠として
残させてもらいます。

どうして
こんなことをするのか
最初、俺には疑問
だったんですが――

美咲さんを見て
その理由が、
よくわかりましたよ



はっ!

ちっ……
違っ……!



あっ……!



あなたが、
どうしようもない
変態マゾ女
だからですよ



夫に、他の男に
抱かれて来いと
頼まれた?
普通の夫婦なら
離婚事由に
なりますよ、それ

夫が興奮するから?
夫の趣味だから?
子作り中だから?
俺から見ても、何も
理由になってない

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



無理やりに
キスされても
受け入れる――

スカートを
たくし上げると
言われたら従う

パニッ

あゝ

あゝ

パニッ

パニッ



でも、あなたの夫も
真正のマンですね

俺からしたら、
寝取らせなんて
冗談じゃない

俺なら、自分の
ものを手放したり
しない――



言い訳できないほど
あなたは奉仕する
メスなんですよ
美咲さん――

だから、他の男に
抱かれて来いなんて
夫の命令にも
従つてしまひ……

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

録音してますよ
どっちが気持ち
いいんですか？
美咲さん

俺とのセックスと
美咲さんの夫との
セックス——
比べるまでもない
ですよね？

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ズッ

っ……！

言いたく
ないっ……！

それ、答え
言ってるのと
同じですけどね

ぐちゃっ

ズッ



確かに—
加治木さんは
絶倫で、
セックスも
上手い……

でも、そこには
愛なんてない……
彼にとって、
これはきつとただの
スポーツなんだわ



だから、大丈夫
これは、身体が
反応してるだけ……！

愛情を込めた
夫婦のセックスで
感じるのとは違う、
ただの身体反応

ただの反応
だからっ……！

ゴム、抜かない
ままで回を縛って
おきました。

ばかばかしい。
変態。
おかしいわよ。

それを膣に入れた
ままで家に帰って
ください。

こんな……
こんなことして
なんになるの……？

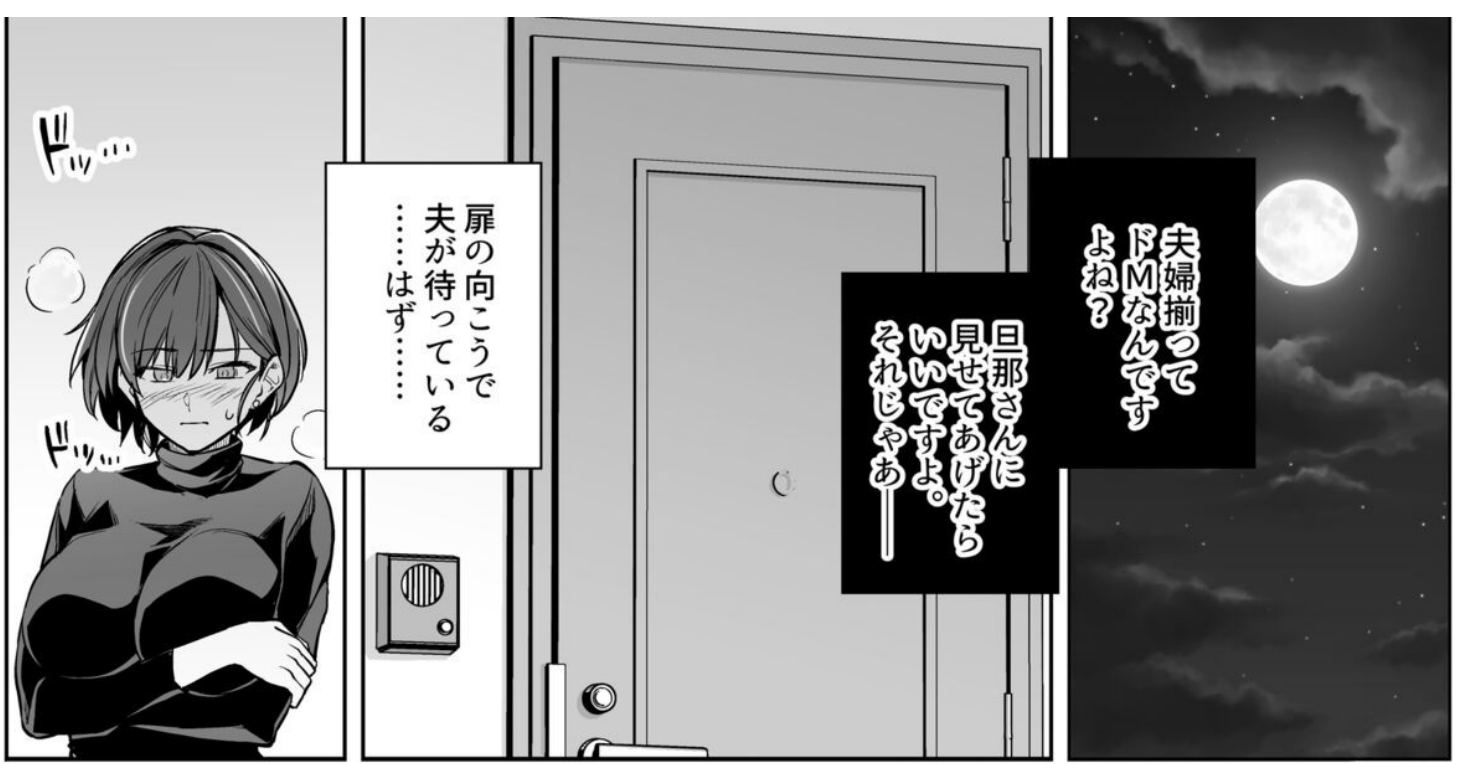
抜いたら
駄目ですよ
命令です
から……

フッ……
フッ……
フッ……

キッ

こんなの、
夫が見たら
どう思うか――

なのになんで私
それに従って
いるの……？



夫婦揃って
FMなんです
よね？

旦那さんに
見せてあげたら
いいですよ。
それじゃあー

扉の向こうで
夫が待っている
……はず……



……
あんなに、
感じるなんて



疲労感と
罪悪感が
混ざって

どつと
襲ってきて
座り込む

夫を待たせて
いるのに……

急に、身体が
鉛になった
みたいに……

キゅ……

——あなたが
どうしようもない

変態マゾ女
だからですよ



……バカ女

ドクン……

あんな男に
いいように
言われて……

ドクン……

加治木さんに
言われた通り――

アソコに
コンドームを
入れたまま……

これから、夫に
これを見せると
思うと……

キキキキ……

恥ずかしさで
顔から火が
出そうになる

ヒキ
ヒキ
ヒキ

キキキキ……

あの人
傷つかない
かな……

……ん、
待て待て

夫の性癖に
付き合っ
てあげたのに

私とその心配
するのは
違うのか？

……考えても
仕方がないか



でも——

キラ



ドサッ

は……つかれた……

ベッドに倒れこむ
疲労感
は全身を包んでいる



興奮した夫の表情……

硬く勃起した夫のアソコ……

……つかれた

ど……どうだった……？



ククク

じわり、と
私の身体の奥から
熱があふれ出す

夫の視線——
私に欲情した
オスの視線……

自分のアソコが
うずきだすのを
感じる……

すごく……
ドキドキする……

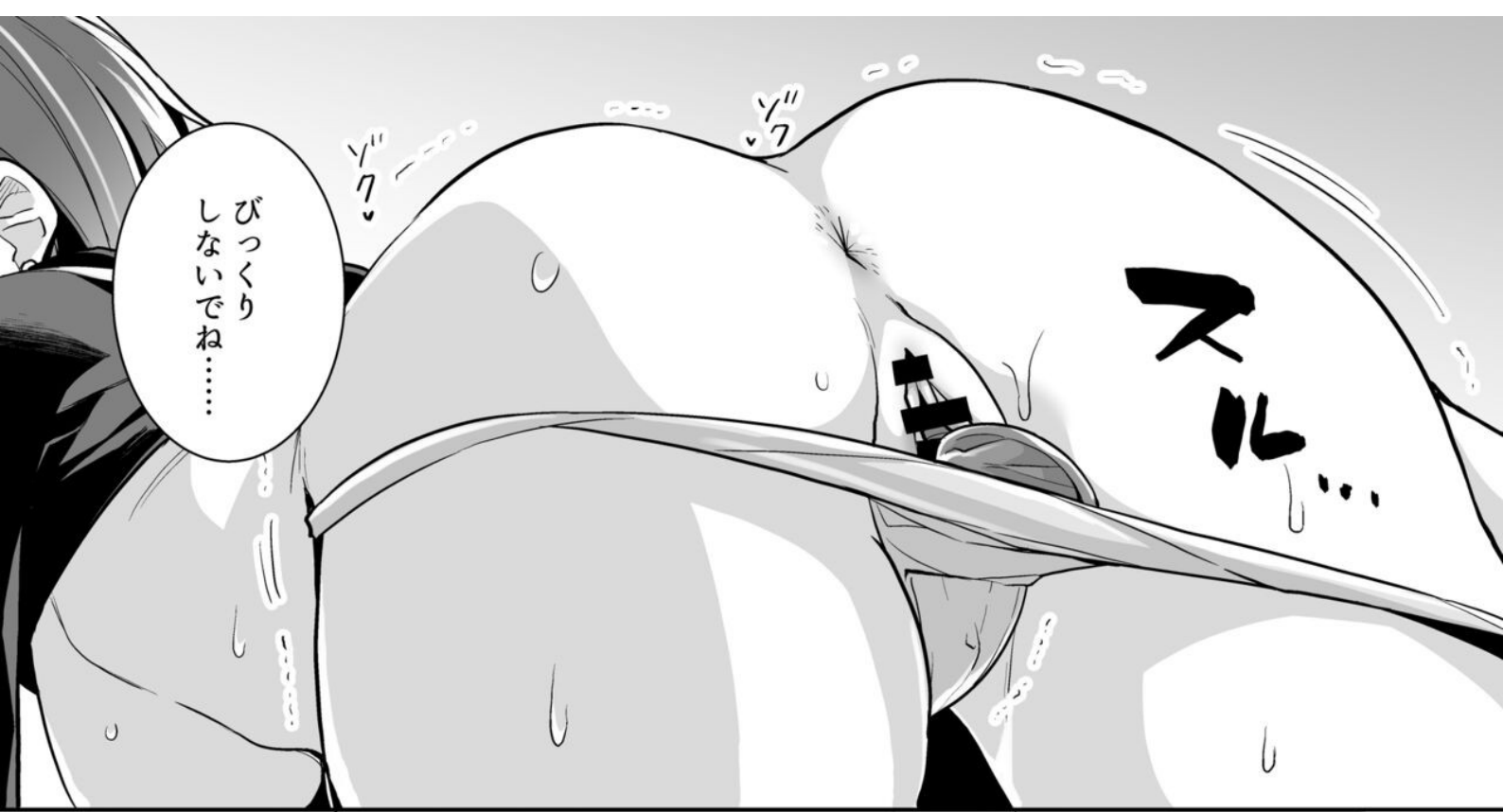
心臓の鼓動が
早まっていく

別の男の人に
抱かれてきた
後なのに——

夫も私も、
ひどく興奮
している

これが……
背徳感というもの
なんだろうか？

それとも、
別の男の人に
抱かれてきた後
だからだろうか



びっくり
しないですね……

ズル……



私の心臓の鼓動は
破裂しそうな
ぐらい速くなる

これを見せたら
夫の興奮は
どうなって
しまうんだろう

ハッ



加治木さんが……
「おみやげ」
だって……

ズ…

み……美咲
それって……

加治木さんが……
射精したコンドーム

命令されて——
そのまま……
アソコに入れて
帰ってきたの……

あなたに、
見せるために——



足を開き、
夫に見せる。

そこには、
加治木さんの残した
コンドームがある。

他の男性に、
たった今まで
抱かれてきた
その証明が――



夫の表情は、
明らかにこれまで
とは違っている



み……
美咲……
それ……



彼の性癖である
「寝取らせ」から
来る興奮……

どろりとした欲望、
ねばつくような
視線が私に
向けられる――



言えない……



美咲っ……
ど、どつちが……
気持ち良かった……？



そ……
そんなの……



夫の反応を見ながら
言葉を紡いでいく

私がどんなふうにも、
隣人の加治木さんと、
セックスしたのか……
何をされたのか――

シャワーも浴びずに
始めたこと……
荒々しいキス……
それを私の体が
受け入れたこと……

それを聞くたびに、
彼の体はびくりと震え
視線が一層ねばつき、
息が荒くなる……

夫の中に、こんなにも
ねばつく湿った欲望が
隠れていたなんて……

ど、どうだったの？
僕と彼を比べて

く……
比べられない……
でも……

私は、夫の望んでいる
答えを口にする……

お隣さん、すごく……
上手だったわ……

み、
美咲っ……！！

いつもの、暖かく、
柔らかな……やさしい
愛情の確認のための
セックスとは違う……

はっ
こんな風に、夫に
求められたことは
今までなかった

美咲っ

キッ

はっ

まるで、軟体動物の
捕食行動のような……
絡みつくような性交

いやらしく、ねばつき、
湿度のあるその欲望に、
私の身体の奥で
一気に体温が上がる

自分が激しく
欲情されるとは、
こんなにも、
興奮することなのか

トキ



柔らかく、湿って
まとわりつく……

私の呼吸も
荒くなり、情欲に
身体が熱くなる



黒くねばつく
夫の欲望が、
私の身体に
侵入する

ああ……
あなた……

ねえ……
あなた……

こんなにあなたが
興奮してくれるって
いつ以来かな……

ねえ……あなたって
本当に「そう」なの？
こういうことでしか
興奮できないの……？

本当なら——

妻を隣人に抱かれて、
悔しさに震えている
はずなのに…

美咲…

そんなにも
興奮した顔で、
私を抱くの？

ねえ、どうして
いつもより

ずっとずっと
私を愛して
くれるの…？

あなた…
あなたは…
また、私に

また、他の男の人に、
抱かれて欲しいって
思ってるの……？

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

夫の粘つく欲望が
私の身体の奥深くに
放たれる……

ふうっ……
うんっ……
♡

とろ……

心の奥から
沸き上がる
どろりとした
欲望を感じながら――

私は、それを
受け入れた

翌日――
夫は、「寝取らせ」を
継続したいと
言ってきた……



加治木さんの出した条件は「妻」として振る舞うこと

こうして——
昼間は隣人に抱かれ
夜は夫に抱かれる
生活が始まった



他所行きの服だな

ポソ...



昼間、私は加治木さんの家に行く……



もっと露出の多い服の方が好きだ
……今度、買っておく

似合わないわよ……



……もっとカジュアルな服の方が好きなの？



ここでも、普段の服を着てくれ

……わかったわ



そして……
確かにセックスは
上手く……
絶倫だった



加治木さん……
在宅で仕事を
している
プログラマー？
エンジニア？
仕事は猛烈に
できるみたい……

でも、交友関係は
乏しいように見える
趣味は、体を
鍛えること……
まるで、孤独な自分を
守るために
鎧を纏っている
ように思える



……俺には
そういう関係は
作れない



あなたの奥さんに
なる人は大変ね……

ちゅっ

夜には、夫との温かく湿った泥のようなセックスに耽溺する――

ちゅっ

ちゅっ

昼も夜もセックス漬けの日々の繰り返しで私たちが夫婦の感覚はどんどん狂っていった

はんっ

本当に、この人は、他人を支配することではか――関係を作れないのかもしれない……

はんっ

はんっ

昼間には、冷たく乾いた鉄のような隣人に抱かれ……

夫との子供が
できるまで……
それまでの
期間限定

それが終われば
また、夫と二人……
穏やかで優しい
日々に戻る
ことができる……

これが
終われば……

だけど……
夫と、私は……

次第にこの状況に慣れ
さらなる刺激を
欲するようになって
いった……

加治木さんとの
情事は、次第に
激しさを増し

夜には、夫にそれを
赤裸々に語る

夫の嫉妬心を掻き立て
さらに激しく抱かれる
ために……

そのことを
加治木さんに
申し訳なく思うこと
すらあった……
彼の気持ちは……



あなたの夫にも……
今俺が味わっている
感情を教える……



んんん
んんん



……もつと
刺激が欲しい
なら協力する



ザ
ザ



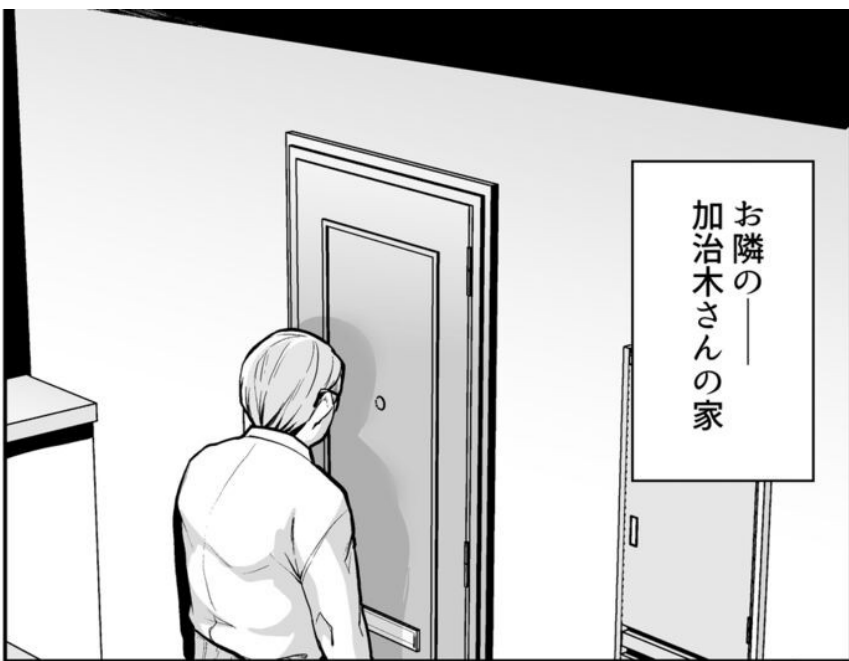
なんだろう……
急に美咲から、
加治木さんの
家に来て、つて
メッセージが……



加治木さんは
そう言うのと、
私のスマホから
メッセージを
夫に送った……

んんん

んんん





……さんたちは
佐々木さん

み、美咲……？



あの、さっきの
メッセージは、
しゅ……主人が、
いたずらで送った
もので……
気になさらないで
ください



さゆ……



ひやつ……

ちよつと……
あ、あなた……
もう……

ビクッ



ドクン……

ドクン……

美咲……？
な、なにを……？
美咲……？

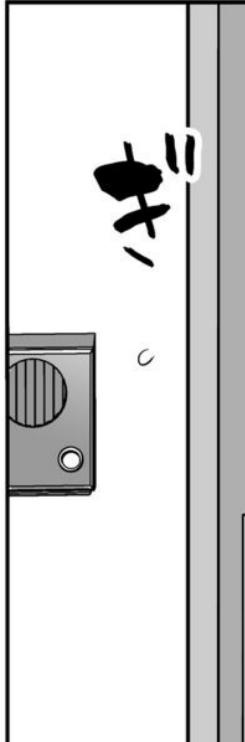


そ、それじゃ、
失礼します
佐々木さん……

ギッ……



ギッ



あつ……

バァニ



あん……
ちん……
ちん……

佐々木さん
まだドアの
前に……
いらつしやるのよ

声の……
聞こえちやう……
ちん……

だめよ……
ちん……

加治木さんに
やらされたのは――

夫の前で、わざと
夫婦のように
振る舞うこと……

ドクン……

そして、夫を
他人のように
扱うこと――

夫を呼び出す
加治木さん……

そして、私も、
言われるままに――

ドクン……

ドクン……





夫は、あんな
激しい感情を
私に向け続けて
くれるのだろうか？

もし……
もし私が本当に
加治木さんの
奥さんになって
しまつたら――



その思いつきは
ひどく不吉で――

私の頭の中に
居座つたまま
消えなかつた



もうこんなことは
続けたくない

帰った後、美咲が
あの男に抱かれて
いるところを
想像すると……
何もかも壊したくなる



ある日、
加治木さんが
絞り出すように
言った……

は……

は……



美咲を……
俺だけのものに
したい……



俺のこの感情は
愛じゃないの
かもしれない

ただの独占欲なの
かもしれない……

それでも……



ちやほほ

加治木さんは
もう続けたく
ないという――



ほして
続けて

🔑



あなたは……
どうなの……？

私がこれをつけて……
加治木さんに
取られてもいいの？



ねえ、
あなた……





美咲っ……
愛してるんだ
本当だ……!!



わ……
わかってる……
ばかね……



分かってる？
本当に？

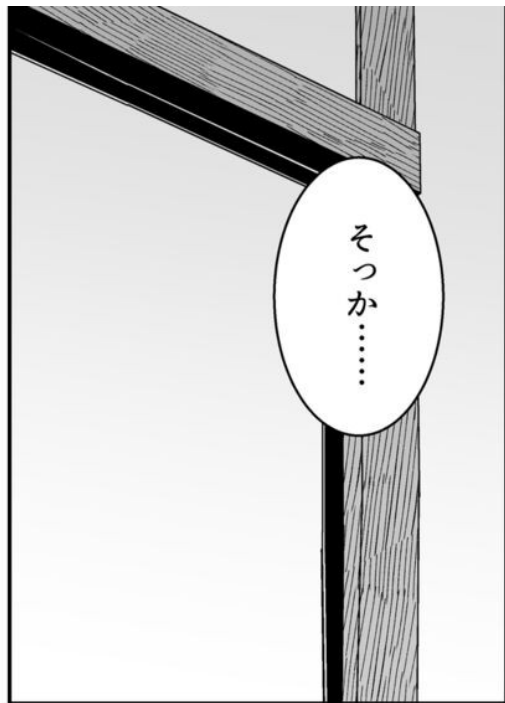
もう終わりにして
私を独占したい
加治木さんは
私を愛してなくて

私を他人に抱かせ
続けたい夫は、
私を愛しているの……？

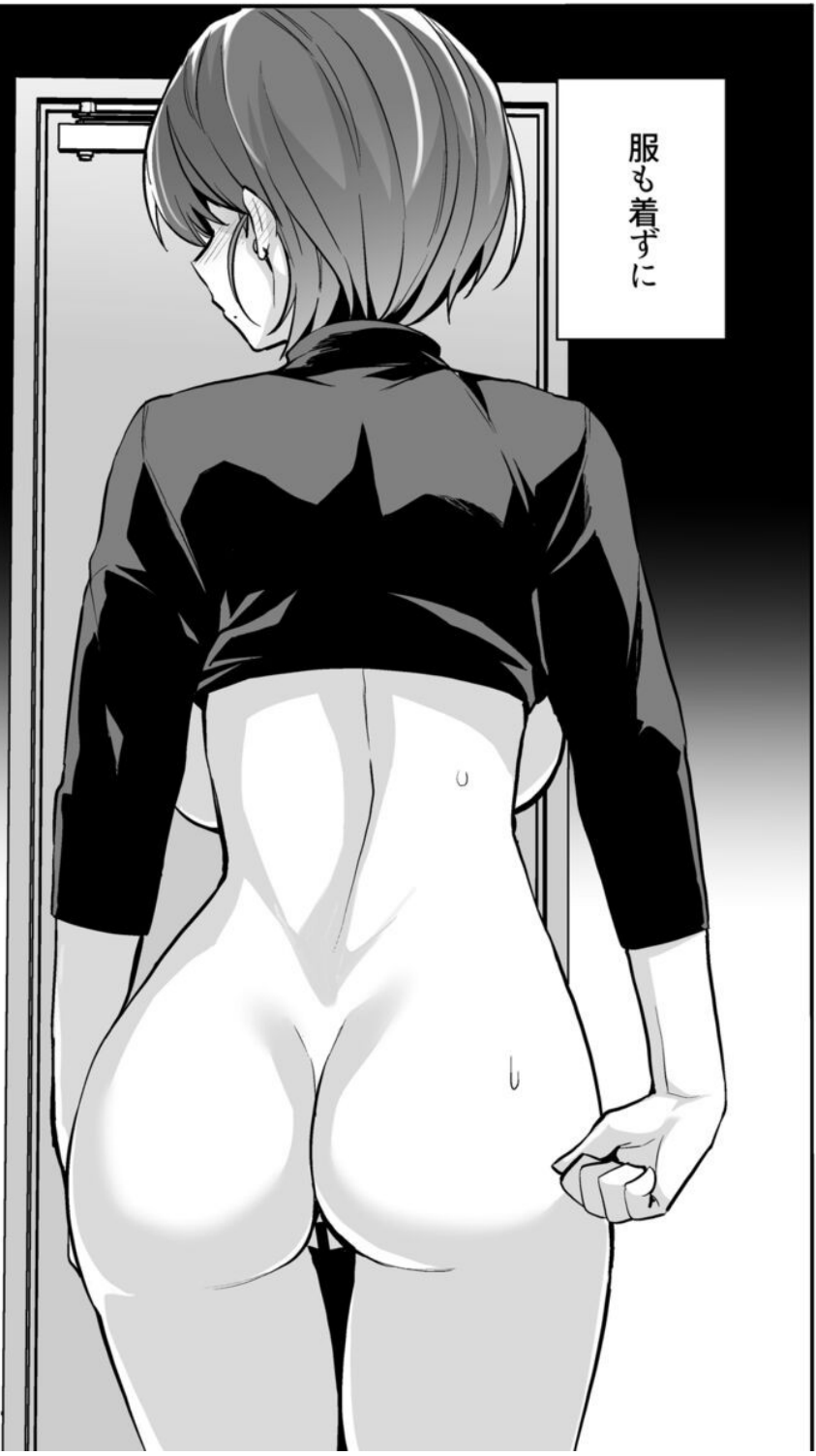
じゃあ——じゃあ、
私の「愛してる」って
気持ちはなんなの……？



そういうこと
だったんだ……



そっか……



服も着ずに



キリッ……

真夜中……
家を出る



ズル……



あなたの……
女になるわ……

もう、避妊も
しないわ……
あなたの子を産む

全部、あなたの
ものにして……
私の、全部……

俺を、
愛している
からか？



ううん……

あの人を……
愛しているから

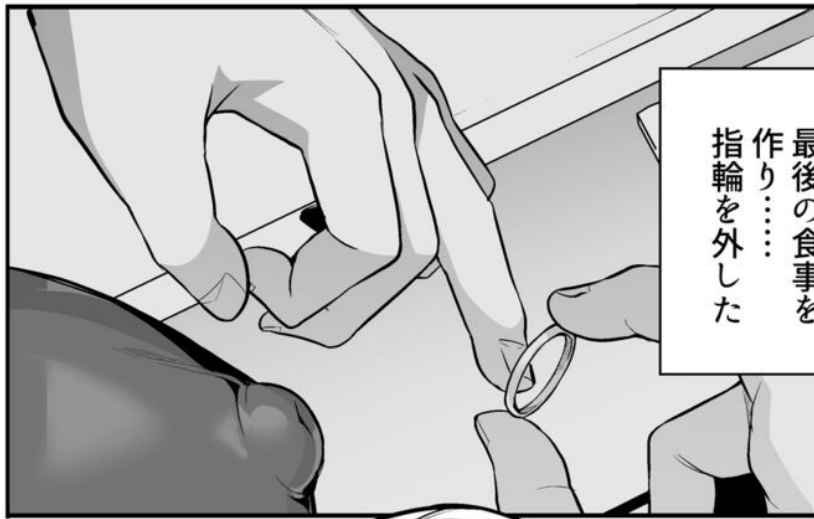
……
それでもいい
今は……



この人の
雌になる

私の身体は……
愛する夫ではなく
他人のものになる

これから
ずっと——



最後の食事を
作り……
指輪を外した



翌朝、
夫のいる
家に行き



私の大切なもの
すべてを、そこに
置いてきた



幸せな結婚生活も
大切な結婚指輪も
小さな家も、
愛する夫も……



私もあなたも
馬鹿よね……

二人で、満足すれば
良かったのに……



小さくて、静かで
幸せな家庭で……
それで良かったのに

全部、手放して
気持ちいいことを
選んでしまった……

ああ、でも――

これが、喪失感なんだ
これが背徳感なんだ

あなたは私が
抱かれる時、
こんな風に……

脳が灼けるような
衝動を感じてたんだ

おっ

おっ

はっ

おっ

はっ

はっ

ちゅっ


ちゅっ

ちゅっ

私、もう
おかしくなりそう……
ううん、もう既に……




もう……
私たちの人生は
手遅れだね……



あつけないほど
簡単に——
私は加治木さんの
赤ちゃんを妊娠した

加治木さんとの
セックスでの
避妊をやめたら
すぐに……

自分が子供を
産めることに
少しほっとした




こうして、元夫の家に
来ることも、
ほとんどなくなった

今は、加治木さんと
暮らしている——

加治木さん
今の夫は、
嫉妬深い
から……

今日だけは、
どうしても
必要なものが
あった



それで……
書けた？

離婚届



あん……
ありがとう

うん
判子も
大丈夫だね



元夫から
離婚届を
受け取り帰る
この家で
彼と会うことは
もうないだろう……

彼の寂しそうな
顔に、胸の奥を
締め付けられる
でも――



それでも
私は――

だからこそ
私は……



ええ
ちゃんと……



離婚届は
受け取ったか



ただいま……



離ればば、
離れるほど――

スル
スル
スル



これで、私は
本当に――
この人の雌に
なった……



この人の
雌になっても……
ううん——



(は)
この人の雌に
なるからこそ……
あなたとの愛が
強まると感じる

(は)



遠ざかれば
遠ざかるほど

元夫との絆を
強く感じる……



寝取らせてって
そういうこと
でしょう……？

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ねえ……
あなた……
今、幸せだよ

あなたも
幸せだよね？

これが、あなたの
望んだことだよね？

私は、そう
確信してる……

だって
私は……

ズッ

あ

あ

ズッ

ハッハッ

ハッハッ

ハッハッ



あなたを
愛しているから

他人の雌に
なったのだから――

妻 が、他人の 雌 になるまで。 裏

愛してる、
あなた――

発行日：2024年8月12日

発行者：haruhisky

発行元：ろいやるびっち

特別支援者：thar 様

印刷所：日光企画 様

連絡先：haruhisky1@gmail.com



